



2019年病害虫の発生と防除

農林水産省消費・安全局 植物防疫課防疫対策室
農産安全管理課農薬対策室

2020年の病害虫防除シーズンに向けて、2019年の天候経過、主要病害虫の発生概況および植物防疫事業概況等を取りまとめたので、今後の病害虫防除対策の検討資料として紹介する。また、2019年に都道府県から公表された病害虫発生予察情報（警報、注意報、特殊報）について、表-2に取りまとめたので、本文での病害虫発生状況の記述と併せ参照されたい。

I 天候経過の状況（気象庁報道発表資料より抜粋）

1 2018年冬（2018年12月～2019年2月）の特徴

（1）東・西日本と沖縄・奄美では、北からの寒気の影響は弱く、冬の平均気温はかなり高かった。特に沖縄・奄美は記録的な暖冬となった。

（2）冬の降雪量は、平野部ではかなり少なく、東・西日本日本海側でも、寒気の影響が弱かったため、かなり少なかった。特に西日本日本海側は記録的な小雪となった。

（3）北・東日本では、発達した低気圧や湿った空気の影響を受けにくく、冬の降水量は少なく、北日本太平洋側と東日本日本海側ではかなり少なかった。一方、沖縄・奄美では、暖かく湿った空気の影響で、降水量が多かった。

2 2019年春（3～5月）の特徴

（1）北～西日本では高気圧に覆われる日が多く、日照時間はかなり多かった。また、降水量は北日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側と西日本で少なかった。

（2）全国的に、高気圧に覆われて晴れて強い日射しの影響を受けたことや、暖かい空気が流れ込みやすかったため、春の平均気温は北・西日本と沖縄・奄美でかなり高く、東日本で高かった。

（3）沖縄・奄美は、期間を通して前線や湿った空気の影響を受けやすく、春の降水量は多かった。

3 2019年夏（6～8月）の特徴

（1）梅雨前線の北上が平年より遅かったため、梅雨明けは平年より遅れた地方が多かった。また、8月後半は低気圧や前線の影響を受けやすかった。西日本を中心にたびたび大雨となり、西日本太平洋側の夏の降水量はかなり多く、東日本太平洋側と西日本日本海側の降水量は多かった。また、東日本太平洋側と西日本の日照時間は少なかった。

（2）暖かい空気に覆われる時期が多かった北日本および沖縄・奄美と、7月末から8月前半にかけて太平洋高気圧に覆われて晴れて厳しい暑さが続いた東日本では、気温は高かった。

（3）梅雨前線や台風および湿った空気の影響を受けやすかったため、沖縄・奄美の夏の降水量はかなり多く、夏の日照時間はかなり少なかった。

4 2019年秋（9～10月）の特徴

（1）9月は暖かい空気が入りやすかったことや、北・東日本を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、全国的に気温が高く、沖縄・奄美を除きかなり高かった。10月も北・東・西日本では、暖かい空気に覆われやすく、気温がかなり高くなったため、北・東日本では、10月としては1946年以降で1位（北日本では1位タイ）の高温となった。

（2）9月は北・東日本を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、北日本太平洋側と東日本日本海側では降水量がかなり少なかった。沖縄・奄美では、湿った空気や台風の影響により降水量が多かった。また、複数の台風の影響により、各地で大荒れとなった。特に8～9日にかけては、台風第15号の影響により、東日本太平洋側を中心に記録的な暴風となり、千葉県などで甚大な災害が発生した。10月は台風や低気圧、前線の影響を受けやすかったことに加え、南から湿った空気が流れ込んで、たびたび大雨となったため、降水量は北日本太平洋側と東日本でかなり多かった。また、11～13日にかけては、台風第19号の影響で、東日本から東北地方の広い範囲で記録的な大雨となり、大きな被害が発生した。

Occurrence of Pests and Diseases and their Control in 2019 in Japan. By Plant Protection Division, Food Safety and Consumer Affairs Bureau, MAFF

（キーワード：2019年、病害虫、発生動向、農薬、出荷状況）